

1 目指す学校像

本校は、90年に渡り、地域に根ざし、有為な人材を社会に輩出してきた歴史と伝統を有する学校である。「自主・自律」、「文武両道」、「伝統の継承と新たな文化の創造」をスローガンに掲げ、高い志を胸に抱き、自らの夢の実現に向けて主体的に学び、国際社会で活躍できる人材を育成する学校を目指す。そのために、「教養教育」「大学進学」「国際理解教育」「豊かな人間性の育成」に重点を置いた教育活動を組織的・計画的に展開する。

生徒が、教科学習・キャリア学習・特別活動・部活動に積極的に取り組み、知性と教養を磨き、人間性を陶冶し、心と体をたくましく鍛える学校を目指す。3年間充実した高校生活を過ごし、生徒が、「町高生」であることに誇りを感じ、生涯、愛校心をもち続けるような学校を目指す。

教職員が、学校経営計画を基に一致協力し、日々研鑽に励み、教科・学年・分掌が一体となった指導を展開し、生徒の夢の実現に向けて努力を惜しまない学校を目指す。

2 中長期的目標と方策

(1) 中長期的目標

学習活動と特別活動・部活動は、本校の教育活動の両輪と捉え、全教員による組織的な指導体制を確立し、自主的・自律的に両立を図る力を伸ばし、社会のリーダーにふさわしいバランスの取れた人間を育成する。

伝統校の文化を継承・発展させ、先輩と後輩、在校生と卒業生の絆を深め、生涯「町高生」であることに誇りを持ち続ける教育を実践する。卒業後も母校を愛し、懐かしく思い出すような有意義な高校生活を提供する。都民が期待する「進学指導特別推進校」として、生徒一人一人にきめ細かな学習指導・進路指導を行い、難関国立大学・国公立大学・難関私立大学等に現役合格できる学力を身に付けさせ、希望進路の実現を図る。

生徒の教養を深め、知的好奇心を育て、生涯学び続ける意思と力を身に付けさせる。

(2) 中長期的目標達成のための方策

① 「自主・自律」、「文武両道」、「伝統と創造」の精神を組織的・計画的に涵養する。

規範意識・社会性・人権意識を高め、社会のリーダーにふさわしい資質・能力を身に付けさせる。

ア 学習と部活動・行事等における「切り替えと集中」を徹底させ、自律的に「文武両道」を達成させる。

イ 学習活動、学校行事及び部活動等の教育活動を通して生徒に自己肯定感をもたせる。また、成功体験を積みませ、生徒に自信と誇りをもたせる。

ウ 社会性やマナーを身に付けさせるとともに、伝統を重んじ、新たな文化の創造に取り組む精神を育成する。

エ 自他の価値観を尊重し、他者を思いやることができる生徒を育成する。

② 難関国立大学、公立大学や難関私立大学への受験を勧め、合格へ向けた進学指導体制を確立する。

高みを目指す進路指導を行い、生徒の潜在能力を開花させる。「進学指導特別推進校」として、難関国立大学及び国公立医学部への進学希望者を増やし、学力を伸ばし、進路実績を向上させる。

ア 進路指導部が中心となり、各教科・各学年との連携を図り、3年間を見通した進路指導を確実に実践する。

イ 年間を通して自習棟や図書館等の開放を行い、自ら学習に取り組む自学自習の態度を身に付けさせると同時に、ともに受験に立ち向かう集団作りを行う

③ 「町田高校グランドデザイン」に基づいた教育活動の実践を通して、学校の特色化を推進し、社会で活躍できる人材を育成する。

ア 教養教育を重視し、人生を豊かに生きる素養を身に付けさせるとともに、多感な青年期に人生観・価値観・勤労観を形成させる。

イ ICTなどを活用した効果的・効率的な教育活動の推進を通して、主体的な学習態度や問題解決能力を育成し、生徒の学力を向上させる。

ウ 調査探究活動を通じて実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を設定し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせるとともに、思考力・判断力・表現力等の能力の育成を図る。

3 今年度の重点目標と方策

(1) 学校運営・学校経営

① 学校経営計画の実現に向けて、教職員一人一人が、執務ガイドラインに基づき組織的・計画的に学校運営に参画する。教職員の力を結集するため、学校経営計画の中から自分が果たすべき役割・達成する手立てについて自己申告書に具体的に記載し、組織的・計画的に職務を遂行する。

② PDCAサイクルを実施し、校内組織の業務改善・効率化を図る。

[前後期年2回の実施し、学校運営連絡協議会で報告]

③ 中学校及び塾訪問においては、本校の教育内容の周知に努めるとともに、中学生や保護者のニーズ及び本

校に対する評価について情報収集を行い、募集対策や教育活動に反映させる。 [一人3校以上]

- ④ 業務の効率化・平滑化を図り、全教職員の在校等時間及び持ち帰り業務の削減を目指す。達成に向けて、自己申告書の自由意見欄に改善策の提言を行う。 [年間平均 360 時間以下、昨年度 520 時間]
- ⑤ 保護者対象の学校評価アンケートの回収率の向上を図る。 [保護者数の 80%以上、昨年度 74.5%]
- ⑥ 行政系職員が積極的に教育活動に提言を行い、経営参画型経営企画室の実現を図る。
- ⑦ 校内研修会及び定期的に教科会を開催し、模擬試験等の結果分析、学習の進度や定着状況について共通理解を図り、指導内容や進路指導に生かす。 [教科会月 1 回、校内研修 3 回以上]

(2) 学習指導

- ① 学習支援サービスを活用したオンライン学習、ソーシャルメディアを利用した動画配信及び双方向教育を実践するスキルを身に付け、自宅等における生徒の学習を支援する。 [動画配信の実践]
- ② 生徒の予復習に任せる内容と授業で扱う内容について教科会で精選し、年間授業計画に基づき計画的に授業・講習等を実施する。 [当初の各教科・科目の指導内容を年度内に修了させる]
- ③ 生徒一人一人の学力を的確に把握するとともに、難関国立大学、国公立大学及び難関私立大学に合格可能な学力を身に付けさせるため、放課後の補習、土曜講習及び長期休業中の講習を講習委員会・進路指導部の計画の下、計画的・組織的に実施する。 [1人3講座以上]
- ④ 週末課題や予習・復習が必要な授業を展開し、家庭学習等、授業以外の学習習慣の定着を図る。

1年生 平日平均	2時間以上が 40% (昨年度 32.5%)	土・日	4時間以上が 20% (昨年度 7.9%)
2年生 平日平均	3時間以上が 20% (昨年度 8.7%)	土・日	5時間以上が 20% (昨年度 7.2%)
3年生 平日平均	5時間以上が 50% (昨年度 44.9%)	土・日	6時間以上が 80% (昨年度 66.5%)
- ⑤ 教員相互で授業を見せ合い、意見交換し、互いの授業力の向上を図る。 [見る・見てもらう各 2 回以上]
- ⑥ 全教職員が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。 [自習棟の監督年間 2 回程度]
- ⑦ 共通テスト 5 教科受験者数を増やすとともに受験科目以外の科目についても満遍なく学習に取り組みせ、広く一般教養を身に付けさせる。

(3) 進路指導

安易に現状の学力に見合った進路を選択させるのではなく、高い目標をもたせ、目標を達成できるように計画的に学力を伸ばす進路指導を行う。

- ① 定期的な進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会をとらえて、難関校に挑戦する志の高い生徒を増やす。 [各学年難関国公立志望者 10 名以上]
- ② 保護者面談を実施し、進路情報を提供し、保護者の受験に対する意識を高め、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。 [各クラス年間 1 回以上]
- ③ 昨年度の卒業生の進路データを活用するとともに、今年度の卒業生から進路データの提供を求める。卒業生全員から回答を集め、提供同意者を増やす。 [提供同意者 120 名以上 昨年度 82 名]
- ④ 進路指導部、学年による「進路だより」を発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。 [月 1 回以上]
- ⑤ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト (各学年)、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。
- ⑥ データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、高みを目指す進路指導を行う。進路説明会を頻繁に開催し、進路指導を充実させ、センター試験フル受験者を増やす。 [150 名以上 昨年度 128 名]
- ⑦ 外部機関と連携した教員の指導向上及び生徒の学力向上に向けたきめ細やかな指導を行う。

講習・補習の充実	[1100 時間以上 昨年度 1485 時間]
センター試験総合得点率	80%以上、受験者の 15%以上 (H31:12% H30:13% H29:9%)
現役大学合格者	国公立大 50 名 (H31:45 名 H30:44 名 H29:55 名)
	難関私大 50 名 (H31:38 名 H30:42 名 H29:50 名)

(4) 生活指導

都立高校生活指導指針を踏まえ、「時を守り、場を清め、礼を正す」をスローガンにして、日々の教育活動を通じて公共心を高め、社会人としての自覚と責任感を涵養する。

- ① 時間を大切に、時間を守る生徒を育成するため、チャイム始業・チャイム終業を徹底する。
- ② 人権意識を高め、SNS等に根拠のない情報を投稿したり、ネット上で誹謗中傷を行わないよう指導する。
- ③ 出勤時・授業中等あらゆる機会を捉え、交通ルールを守らせ、とくに小学生の模範となるよう指導する。
- ④ 教職員自ら挨拶の励行に努め、明るく活気のある学校づくりに取り組む。

(5) 特別活動

「自主自律」「文武両道」の精神を通して知力・気力・体力を向上させ、「伝統と創造」に基づいた学校文化の醸成を図る。

- ① 学習活動と特別活動（部活動・学校行事等）の両立ができるように生徒の自律心を養うとともに、適切な指導・助言の下、生徒の主体性を育成する。
- ② 生徒の主体的活動を支援し、HR・部活動・委員会活動・学校行事の活性化を図り、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、生徒に成就感・達成感を享受させる。
- ③ HR・部活動・委員会活動・学校行事の取組において、話し合い活動を重視し、コミュニケーション能力の育成や自己理解・他者理解を深めさせ、望ましい人間関係の在り方を学ばせる指導を展開する。
- ④ オリンピック・パラリンピックの精神の涵養を図るため、各教科における学習、研究発表及び講演会等によるオリンピック・パラリンピック教育を通して、生涯にわたりスポーツに親しみ、持続可能な社会への理解と豊かな国際感覚を醸成する。
- ⑤ 主体的に部活動や学校行事に取り組ませ、充実した高校生活を過ごさせることにより、自信と愛校心を高める。

4 今年度の取組目標と方策

(1) 学校運営・学校経営

組織的・計画的な学校経営を通して、「進学指導特別推進校」としての使命を果たすとともに、東京都教育ビジョン（第4次）に基づいた魅力ある学校づくりに努める。

- ① 組織的な学校運営の実現に向けて、学校経営指標（執務ガイドライン、OJT診断基準等）に基づき、各自の経験や職層に応じて業務に取り組む。
- ② 生徒を現役で国公立大学及び難関私立大学に合格させるために、全教職員が「進学指導特別推進校」の職員としての自覚をもち、一致協力して職務を遂行する。
- ③ 教員の資質向上のため校内外の研修を充実させ、授業力、生徒理解力の向上、また、服務事故防止研修を通して服務事故ゼロを実現する。
- ④ 人権尊重を推進し、暴言や体罰防止等に取り組み、服務事故防止を図る。
- ⑤ 分掌主任や事業担当者が的確に進行管理を行い業務を効率的に遂行する。会議を効率的に開催するため、会議時間の上限を設定するとともに資料の事前配布やICTの効率的な活用に努める。週休日や休日の業務の集約や計画的な業務の進行管理により業務の効率化を図り、教職員の在校時間の縮減を図る。
- ⑥ 経営企画室は、経営参画意識をもち、教員との連携を強化し、学校全体で一体となって経営企画室の円滑な運営にあたる。また、自律経営推進予算を編成・執行・管理を行い、校長の学校経営の実現を図る。
- ⑦ 経営企画室は、校長の学校経営を補佐するとともに、研修会やOJTの推進を通して適正な事務を実施し、自律経営推進予算の執行や広報活動では、文武両道、進学向上を図るための予算執行や都民目線に立った広報活動へ参画し、校内外の広報活動への活動を強化する。

(2) 学習指導

- ① 主体的・対話的で深い学びを実現するために、一方通行で単調な講義中心・板書中心の冗長的な授業から、ICTを活用し、アクティブ・ラーニングの手法などを取り入れた授業への転換を図る。
- ② 放課後・土曜日・長期休業中等の講習や補習を充実させ、基礎学力の向上、発展的な学力の充実を図る。
- ③ 日々の予習・授業・復習、まとめの試験・振り返り・学習計画立案といった学習サイクルの定着を図る。課題等により予復習を促し、家庭学習習慣を定着させる。振り返りに基づく自学・自習の力を育成する。
- ④ 生徒の関心や意欲を高め、冗長性をなくすため、積極的にICTを活用した授業実践を行う。
- ④ 身に付けさせる学力を学力スタンダードで明確にし、組織的・計画的な学習指導を行う。
- ⑤ 教科主任を中心とした教科の組織的運営と定例教科主任会による教科連携の強化を図る。
- ⑥ 教養教育を重視しつつ、受験にも対応できる教育課程を編成する。

- ⑦ 全ての教科において、言語活動能力の向上に取り組み、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす指導内容・方法を研究・実践し、学力の向上を図る。

(3) 進路指導

進路指導部と学年・教科の連携強化を図り、生徒の進路意識を高め、国公立大学、難関私大の確実な増加に向けた進路指導を組織的・計画的に行う。

- ① 進路指導部を中心とした3年間を見通した計画性のある進路指導を行い、検証・改善を繰り返しながら組織的な進路指導を実践する。
- ② 学習進路相談を通じて、学習方法、進路先について指導・助言する。現状維持ではなく、高い目標を掲げて伸ばす指導を行う。
- ③ 学年分析会、模試分析会、進路研修会、進路検討会を行い、データに基づいた進路指導部、学年、教科のきめ細かい進路指導を行う。また、学年、クラス、部活等で丁寧な学習指導、生活指導、進路指導を行うとともに、保護者会や保護者面談を実施し、保護者への情報提供を行う。
- ④ 入学当初から進学に対する意識づけを行い、より高い目標設定を促すため、進路指導部と学年が連携し、HRや学年集会等で詳細な情報提供を行い、指導を充実させる。
- ⑤ 進路講話、進路相談、オープンキャンパス、東京都立大学等との高大連携事業等をより充実させ、進路意識を高め、適切な進路決定を行う。
- ⑥ 生徒と学習進路相談を年間に複数回実施し、進学希望・学習状況を把握する。

(4) 生活指導

都立高校生活指導方針（規範意識の育成に向けて）に基づき、道徳心を高め、規範意識に基づき行動する生徒、誇りと自信に満ち溢れる生徒を育成する。

- ① 面談週間や全校集会等を活用した命の教育を推進する。
個別面談を実施し、平素から生徒の様子を注意深く見守るとともに、長期休業の前後には、全校生徒に向けた集会等により命の大切さについて講話等を行い、SOSの出し方や自他の命を大切にする教育を推進する。
- ② TPOに応じた服装・髪型・言葉遣いができるよう教師自ら率先垂範して指導する。
- ③ 全校・学年集会、授業、部活動、学校行事等を通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組み、思いやりのある生徒を育成する。

(5) 特別活動

- ① 部活動及び学校行事等を通して、「自主自律」「文武両道」「伝統と創造」の精神を涵養し、社会をリードできる人材を育成する。
- ② 「切替えと集中」でメリハリを付け、学習活動と特別活動に全力で取り組ませ、知力・気力・体力を向上させる。
- ③ 地域や関係機関と連携した防災訓練や救命訓練などを通して、自助・共助の精神を醸成する。
- ④ 特別活動等で、オリンピック・パラリンピックの精神を涵養するとともに、スポーツに親しませ、日本の良き伝統・文化について学ぶとともに、持続可能な社会の発展や環境教育を推進する。
- ⑤ 生徒に90年余の歴史の継承者であることを自覚させるとともに、様々な教育活動を通して生徒の自己肯定感を高め、生徒に愛校心と誇りを育てる教育を実践する。

(6) 部活動

- ① 部活動では、高い目標を設定し、困難な場面を乗り越える力の育成に努め、達成感を体験させることで、生徒の自信や自尊感情を高める。
[都大会本戦出場3部以上]
- ② 効率的な学習指導を行うとともに「切り替えと集中」について指導し、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。
[部活加入率90%以上]

(7) 募集・広報活動

学校説明会、学校見学会、部活動体験、授業体験、出前授業、中学校訪問及び塾訪問等が、本校の教育活動の理解・周知につながるよう募集・広報活動の充実を図る。全員体制で積極的に対外的な広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加、応募倍率の向上を図る。

- ① 広報誌の発行回数・部数を増やし、配布先も広げる。中学校訪問・塾訪問の際の訪問マニュアルを作成し、中学校や地域に対する募集・広報活動の改善を図り、入試倍率の向上に努める。

[推薦に基づく選抜 2.0 倍以上、学力検査に基づく選抜 1.4 倍以上]

- ② 学校説明会、学校見学会等の充実を図り、中学校訪問、塾訪問、各種説明会等に積極的に参加する。
[外部の説明会、中学校訪問・塾訪問等、年間 3 回以上]
[学校説明会参加人数 1300 名 昨年度 1169 名]
- ③ 小学生対象、塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。 [50 名 昨年度 26 名]
- ④ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。
[年間 1 人 1 回以上]
- ⑤ HR通信・学年通信の発行や地域・保護者による授業参観を通して積極的に本校の教育活動を発信する。
また、部活動、学校行事及び本校の特色を紹介する広報誌を年間に 4 回程度中学校・地域に配布する。
- ⑥ iPad 及びHP を活用して、本校の教育内容を本校生徒の保護者、中学生・中学生の保護者に発信する。
[HP180 回以上 昨年度 170 回]
- ⑦ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 [4000 名 昨年度 3681 名]

(8) 安全・健康指導、美化指導

防災教育を通して、自分や周りの人の命を守り、地域社会に貢献できる人材の育成を図る。生活の場をきれいに保つことの習慣化に向けた指導を組織的に推進する。

- ① 「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。 [年間 1 回以上]
- ② 避難訓練、宿泊防災訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会などを通して、自助・共助の精神を醸成し、地域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。
- ③ 公共の精神を高め、日々の清掃や整理整頓に真剣に取り組む生徒の育成を図る。日々の清掃活動及び年 3 回以上の大掃除を軸として校内美化に取り組む。 [学校見学会等の前日の清掃活動の徹底]
- ④ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、校内美化に努める。
- ⑤ 環境教育及び持続可能な社会の発展に向けた教育を通して、ゴミの分別・削減、節電を推進する。
- ⑥ 総合的な子供の基礎体力向上方策を活用して、早期から基礎体力向上に取り組み、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体を育てる。 [生徒体力・運動能力において 5 種目で都平均以上]
- ⑦ 命を大切に教育を推進するため、企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが、連携を密にした組織的な指導を行う。
- ⑧ 地域や関係機関と連携した防災訓練や救命訓練などを通して、自助・共助の精神を醸成する。

(9) 国際理解教育

- ① 国際理解教育として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流を推進する。
- ② オリンピック・パラリンピック教育を推進し、授業、特別活動及び部活動において、体力・技術力の向上を図るとともに国際理解教育の充実を図る。
- ③ 実用英語技能検定準 2 級相当の英語力を身に付けさせる。 [全校生徒の 60%以上]
- ④ 茶生花部、和太鼓部及び剣道部の生徒を始めとして、生徒に日本の伝統・文化の良さを理解させるとともに他国の伝統・文化を尊重する態度を身に付けさせ、各種交流活動や海外語学研修等において互いの文化について交流ができる生徒を育成する。
- ⑤ 海外修学旅行の実施に向け、準備委員会発足し、生徒の国際理解意識の向上を図る。

(10) 施設設備管理・経営企画室運営

- ① 施設設備の安全確保のための校内見回りを関係者が分担して実施する。 [毎日実施]
- ② 校長に対して自律経営推進予算の執行状況を定期的に報告する。 [月 1 回]
- ③ 予算は、第三四半期までに概ね執行する。 [執行率 80%以上]

(11) 【特別支援教育】

- ① 発達障害のある生徒に対する支援方法について校内研修を実施する。 [年間 1 回程度]
- ② 発達障害により特別な支援が必要な生徒について、SC、外部機関、保護者との連携を図り、ケース会議等の開催を通して支援を実施する。 [ケース会議に向けた個別指導資料の作成]